

# 早稲田 岳文広報

第五十二号

発行：早稲田大学岳文会OB会  
発行日：平成24年7月  
事務局：

<http://ob.gakubunkai.com/>

## 2012年度 岳文OB会 行事計画

実施日	行事内容	集合場所・時間	担当者	申込締切
8月25・26日 (土・日)	現役夏合宿	上高地 小梨平キャンプ場 午後3時より	-	-
9月30日 (日)	文学散歩 上野から本郷へ	上野駅中央口「翼の像」前 午後1時	轡田 (12期)	9月27日 (木)
10月13日 (土)	ハイキング 笹子雁ヶ腹摺山	中央線笹子駅 改札 午前9時30分	轡田 (12期)	10月10日 (水)
10月27日 (土)	早稲田スポーツ観戦 東京六大学野球「早慶戦」	JR信濃町駅 午後0時	高橋 (44期)	9月30日 (日)
11月23日 (金・祝)	親睦麻雀の集い	早稲田界限 午前10時より	赤井 (42期)	-
11月24日 (土・予定)	総会	詳細は次回の広報に記載		
12月2日 (日)	早稲田スポーツ観戦 関東大学対抗戦「早明戦」	JR千駄ヶ谷駅 午後1時	高橋 (44期)	10月30日 (火)
共通ルール				
①ハイキングは、昼食（お弁当）、行動食、装備など各自準備ください。				
②日程は、変更、中止があります。参加の場合は、事前に必ず連絡願います。				
③ご家族、友人、現役の方の参加も大歓迎です。				

### 文学散歩

#### ◇ 一葉の面影をたずねて

##### —上野から本郷へ—

- 開催日 9月30日(日)
- 集合場所 上野駅中央口 「翼の像」前 午後1時
- コース  
上野駅—①一葉旧居跡—下町風俗資料館— 一葉の通った  
私立青海学校跡—②一葉旧居跡—湯島天神—啄木歌碑—  
鱗祥院(春日局墓所、東洋大学・相模女子大学発祥の地)  
—③一葉旧居跡(桜木の宿)—法真寺(一葉資料館)—喜  
福寺(佐藤紅緑・久保田万太郎墓所)—徳田秋声旧宅—(1)  
坪内逍遙旧居跡—(2)坪内逍遙旧居跡—文京ふるさと歴史  
館—④一葉旧居跡(森田草平旧居と同じ)—⑤一葉旧居跡  
—旧伊勢屋質店—久佐賀義孝の天啓顕真術本部跡—半井  
桃水旧居跡—夏目漱石旧居跡(魯迅旧居と同じ)—⑥一  
葉終焉の地—後樂園駅
- 費用 入館料 400円 懇親会費 4,000円程度
- 申込 9月27日(木)までに、12期轡田まで  
・メール：  
・携帯：  
・自宅：

本郷は色々な切り口がある。漱石・鴎外・啄木等々あるが、今回は一葉に焦点をあてて散歩をしてみよう。

一葉の家族は、上野から本郷だけで十箇所以上転居を繰り返している。そのうち、今回は一葉終焉の地までの6箇所を訪ねてみる。

JR上野駅を出て、日本生命上野ビルの裏手に一葉は10歳から13歳まですんでいた。ここから池之端にある下町風俗資料館に向かう。ここは、一階が大正時代の街並みを再現して

あり、二階部分は昔遊びができたり昭和30年代の民家が再現されている。近くに一葉が通っていた私立青海学校跡がある。一葉はここを中退しているので、彼女の学歴は小学校中退となる。ここから一葉が13歳から17歳まで住んでいた家跡をとおり、近くの湯島天神によってみる。湯島天神を過ぎ、春日通りの坂の途中にある啄木の歌碑をみて、春日局の墓所である鱗祥院に向かう。ここは、東洋大学の発祥の地であると同時に相模女子大の発祥の地でもあるのである。

東大構内を通り赤門を抜け、通りの向かいにある法真寺と、一葉自身が最も幸せの時代といっている「桜木の宿」(4歳から10歳)跡に向かう。法真寺の手前に旧居跡がある。法真寺の境内には一葉資料館があり、一葉の半井桃水宛書簡や短冊、写真や文献などがある。隣の喜福寺には、佐藤紅緑や久保田万太郎の墓がある。徳田秋声の旧宅も近いので寄ってから文京ふるさと歴史館に向かう。途中、坪内逍遙旧居跡が2箇所ある。

文京ふるさと歴史館から少し戻って、一葉が使っていた時代の井戸がある旧居跡に向かう。この場所の2箇所に一葉は住んでいた。そのうちの1箇所は、平塚明(らいちょう)と心中未遂事件を起こした漱石門下の森田草平の住んでいた所と偶然にして同じである。さて、次は一葉研究家を大変悩ましている久佐賀義孝なる人物の天啓顕真術の本部のあった跡である。彼との関係については当日説明する。少し戻って。一葉が足しげく通った旧伊勢屋質店を見て、半井桃水旧居跡に向かう。

半井桃水は一葉が文学上の指導を受けた人で、眉目秀麗で背が高く、一葉がほれぬいていたといわれる人物である。この近くに漱石の旧居跡があるので寄ってみよう。この旧居には後日魯迅が住んだ。魯迅は漱石を崇拝していて、漱石の住んでいた家に住みたいと願って住んだとのことである。

最後に一葉終焉の地を訪ねる。一葉はここで貧困のうちに24歳という短い生涯を終えた。肺結核であった。

ここから、懇親会の場所へ向かう。後楽園駅前にある文京シビックセンター25階のスカイレストランである。素晴らしい夜景を見ながらの会食である。すでに窓際の席を予約している。

見所が多いので多少時間がかかるかもしれないが、歩く距離は1万歩を越えないだろう。

## ハイキング

### ◇ 笹子雁ヶ腹摺山～お坊山～景德院

- 開催日 10月13日(土)
- 集合場所 中央線笹子駅 改札 午前9時30分
- コース  
笹子駅(0:40) 登山口(1:40) 笹子雁ヶ腹摺山(0:50) 米沢山(0:40) お坊山(0:35) 大鹿峠(0:30) 景德院(1:00) 甲斐大和駅 徒歩約5時間
- 持物 昼食 雨具 水筒 タオル 行動食 敷物
- 費用 交通費(新宿から往復)約4,000円  
入浴料 800円 懇親会費 3,000円程度
- 注意事項 当日の現地(甲府)の降雨確率が50%を超えたら中止とする
- 申込 10月10日(水)までに、12期響田まで  
・メール:  
・携帯:  
・自宅:

笹子雁ヶ腹摺山とお坊山は、大菩薩連嶺と御坂山塊をつなげている小粒とはいえなかなか急峻な山である。JR中央線笹子駅で下車する。国道20号を西に向かって歩く。行く手には今から歩く山稜が見えている。

国道が笹子トンネルに入る手前から左の旧道にと入るとすぐ登山口で、道標がある。暗い植林地の沢筋をひと登りで送電鉄塔の下に出る。ここからはしっかりとした尾根道となるが、なかなか傾斜がきつい。さらに急な登りをこなし、電波反射鏡が現れると笹子雁ヶ腹摺山の頂上である。目に入る甲府盆地が広く感じられる。南アルプスから八ヶ岳、奥秩父の山並みが見えやすい。ここからお坊山にかけては残算広葉樹に覆われ、新緑や紅葉が見事である。

米沢山までの稜線は大小のピークが連続し、傾斜も急なところが多いので足元はおそろかにできない。いくつかのコブを越すと米沢山ののぼりとなる。鎖場が数箇所あるがさほどではない。米沢山からはこれまでに比べると穏やかな道となり、ピークを2つ越すとお坊山の頂上である。甲府盆地側の展望がきく。

単調な道を一気に下り、大鹿川への道を分ける大鹿峠に着く景德院へはその先の送電鉄塔の立つピークから尾根伝いの道へ入る。明るい尾根道を下り、やがて暗い林に入り田野氷川神社を過ぎる。獣よけの柵を抜け、民家の庭先を通り車道に出ると景德院はすぐである。

ここは、甲府から家臣の岩殿城主小山田信茂を頼って落ち延びてきた武田勝頼一行が、小山田の寝返りを知りもはやこれまでと全員自決した場所である。家康が、勝頼一行の弔いのためにこの場に寺院を建立した。ここからは、時間が合えばやまと天目山温泉へバスで向かう。この温泉は国内で有数の強アルカリ温泉で、源泉かけ流しである。湯上りの一杯はここでやろう。

## 夏合宿

現役の夏合宿が8月17日から8月26日の間、北アルプスで行われます。集中式は8月25日(土)午後3時から上高地の小梨平で行います。

O・B会としては、これに合わせて参加したいと思います。

当日の夕食は現役とともに頂きますが、翌26日(日)の朝食は各自ご用意願います。(キャンプ場内に食事を取れるところがあります。)

梓川のせせらぎの音を聞きながら満天の星を眺めるという別天地のようなひと時を共に過ごしてはみませんか。

- 日時 平成24年8月25日(土) PM3:00 集中
- 場所 上高地 小梨平キャンプ場
- 交通 各人にて手配してください。  
マイカーの場合も沢渡駐車場よりバスまたはタクシー利用になります。
- 予定 現役と共にキャンプファイヤーをします。  
夕食は現役が作ってくれます。食器類を持参してください。
- 連絡 事前にご連絡頂ければありがたいですが、当日参加も大歓迎です。  
響田(ツツタ) (12期)  
・メール:  
・携帯:  
・自宅:  
もしくは小田(オダ) (49期) まで  
・メール:  
・携帯:

※2008年、小梨平キャンプ場に熊が出没し、集中日に使用が禁止され、急遽徳澤園にて集中式を実施しました。昨年は熊出没の情報はありませんでした。今年も警戒を要します。万一集中式の場所を変更する際は、変更先の伝言をお願いしておきますので、当日参加される方は、事前に小梨平キャンプ場の管理事務所(0263-95-2321)まで確認をしていただきますようお願いいたします。

## 早稲田スポーツ観戦

スポーツ観戦を企画いたします。多くのOB、OGの皆様と一緒に伝統の早慶戦(野球)では「紺碧の空」を、早明戦(ラグビー)は勝利のあかつきには「荒ぶる」を歌いませんか。

### ◇ 東京六大学野球「早慶戦」

- 日時 10月27日(土) 予定 午後1時試合開始  
※正式な日程が発表され次第参加者には連絡いたします。
- 場所 神宮球場
- 集合 JR信濃町駅 午後0時
- 申込 9月30日(日)までに、44期高橋まで  
・メール:  
・携帯:
- その他 一般席での観戦予定となります。  
試合終了後、懇親会を予定しております。

### ◇ 関東大学対抗戦「早明戦」

- 日時 12月2日(日) 午後2時試合開始
- 場所 国立競技場
- 集合 JR千駄ヶ谷駅 午後1時
- 申込 10月30日(火)までに、44期高橋まで  
・メール:  
・携帯:
- その他 試合終了後、懇親会を予定しております。

## 親睦麻雀の集い

O・B總會の前日に親睦麻雀の集いを開きます。現役との交流や支援も兼ねた集いとなります。腕に覚えのある方、そうでない方、老若男女どなたさまもふるってご参加いただければ幸甚に存じます。

- 日時 午前10時～18時まで。途中参加も可能です。  
その後、打ち上げも予定しております。

2. 場所 早稲田界限＝参加人数の大勢が見えてから、ハコ選びを行います。
3. 参加費 現役：場代＋賞品代 1,000 円  
OB：場代＋賞品代 5,000 円  
＊場代はいつからご参加されるかにもよって変わりますが、早稲田のため格安です。

4. 賞品 現役の支援の意味合いを兼ね、さかいやや石井スポーツなど登山用品店で使える商品券等を考えております。もちろんなるべくいろんな用途に使える種類のものを選びます。それを順位に応じた分、賞品としてお渡しします。賞品代負担の関係で、期待値的には現役がかなり有利ですが、目をつぶっていただければ幸いです。

5. ルール
- ・本集いは賭博ではありませんので、相対で握りあうなどの行為も遠慮いただければと思います。
  - ・現役とOBが極力同卓できるようご協力いただきます。
  - ・いわゆる「アリアリ」ルールです。
  - ・射幸心をあおるチップや赤などは使いません。
  - ・25,000 点の 25,000 点返し。持ち点に「1 位は＋20、2 位は＋10、3 位は－10、4 位は－20」の計算を行う、マイルドな形にしようと思います。(オカ無しワンツー)

6. 申込 参加希望やお問い合わせは、42 期赤井までご連絡ください。
- ・メール：

ある程度人数が集まれば、店を貸し切ることも可能です。皆様の参加をお待ちしております。参加希望の方のメールアドレスでリストをつくり、詳細が決まったところでご連絡を差し上げるスタイルです。

## 5月：文学散歩「小田原散策」

11期 細山 和男

日本ダービーの当日(5月27日)、そういうことには無縁の人達が小田原に集まった。

瀬川さん(8期)片山さん(12期)日下さん(13期)田村さん(14期)佐々木さん(同)、途中から轡田会長(12期)と奥村さん(同)が合流。賑やかな散策になった。私は11期なので8期の先輩とも、14期の両名とも部室ですれ違っている筈なのだが昔の記憶はもうない。世代に注目して言えば、私がちょうど真ん中だということだ、そう、確かに私たちは、あまり明るくはない谷間の、中継ぎ役だったようだ。

晴天微風。田村さんの先導で北条早雲像の前から出発する。まず高長寺に立ち寄る。北村透谷のの眠るお寺だ。墓所で合掌。近くを小田急線が走っていた。

そこから城山公園までは緩やかな長い上り坂。幾つかの文学碑を見てその由来を案内板で読む。透谷もそうだが若くして自ら命を絶った人ばかりだ。案内の文章もその件まで読んで、私は目を背ける。もしこの人達が一神教の信奉者であったならば、そして唯一絶対神から授かった命を自ら絶つことは全き背信だ考える風土に育ったならば、――などと思う。

城山公園に登りきったところで、買って来た駅弁を広げる。夏の先触れの雲が湧き出していた。

「小峯の大堀切」から今度は急な下り。これは自然にこうなったものではなく、敵が攻め寄せたときの防御のために作られた一種の堀だそう。かなり歩いて、北原白秋田居跡の伝蔵寺(でんじょうじ)に着く。いちおうお寺の体裁ではあるものの実態は「みみずく幼稚園」だ。「みみずく寺」の石碑が何かとってつけたようでおもしろい。

また長く下り、東海道線を横切ってしばらく歩いて小田原文学館に着く。入館料250円也を払うとパンフレットをくれる。この建物は「田中光顕」の別邸であったそう。地元出身の文学者(北倉透谷・牧野信一・尾崎一雄など)や小田原に縁のある人々や作品の遺稿や遺品が展示されていた。

私は「田中光顕」の名にちょっと奇異な感じがした。

ずいぶん前『誰が龍馬を殺したか』という本を読んだことがある。一種の推理小説で、歴史上名を知られた思わぬ人物が龍馬暗殺を指示した“犯人”とされていた。(昨年の地震で書棚が転倒し本は重なって散乱してしまい、捨てる訳にもいかず手当たり次第ダンボールに放り込んであります。そういう事情でこの著者が誰であったか、いまは思い出せません。すみません。)そのなかで坂本龍馬・中岡慎太郎殺害現場に最初に駆けつけた人物こそ田中光顕ではなかったか?。著者が推理を展開させていくための、いわば証人の役割を彼・田中光顕に負わせていたと記憶する。土佐藩のいわゆる下士で、龍馬より中岡に近い人物だったようだ。

小田原文学館のパンフレットにはそういうことは一切書かれていない。

時代が進んで明治の薩長土肥政権になってからの経歴については詳しく書かれている。「宮内大臣まで登り詰め、明治天皇の側近として特別な立場の宮廷政治家として大きな勢力を確立した」そう。

小田原に来て幕末の土佐藩の内情に想いを致すことになった、私にとっては以外にして新鮮な文学散歩でした。

こういう行事を企画し、OB会を運営してくださっている轡田さん田村さんはじめ役員の皆様の尽力に改めて感謝いたします。

## 7月：文学散歩「目白文化村から中井へ」

45期 小西 麻子

参加者【敬称略】10名

堤夫妻(5期) 小田(7期) 瀬川(8期) 細山(11期) 轡田、片山(12期) 田村(14期) 小西(45期) 岩本(48期)

## 現役岳文会より

### 現役活動報告

53期 佐藤 秀光

梅雨明けを間近に控えた今日、キャンパスでは浴衣の学生をちらほら見かけ、夏の訪れを感じさせます。現役岳文会は絶好の登山シーズンを迎えました。春季活動報告および、夏合宿のご案内を申し上げます。

今年は男子32人、女子13人の計45人の新入生(55期)が入会し、岳文会は120人を超す大所帯となりました。4月8日に新歓バーベキュー(高麗巾着田)、22日に鎌倉ハイキング(雨天により中止)、28-9日に新歓キャンプ(奥多摩氷川キャンプ場)、5月4日にGWハイキング(高水三山/雨天により中止)、12-13日に新歓ハイキング(日の出山、御岳山)、6月3日に早慶戦観戦企画を行いました。以上が新歓企画となります。装備を揃えた本格山行として6月16-17日に蓼科山へ行く予定でしたが、17日朝方の雨が強かったため中断となりました。7月は7-8日に四阿山・根子岳において念願の山行を行いました。8月からは、八ヶ岳や日光白根山などへの山行を予定しています。

夏合宿は17-28日にかけて実施し、集中式は例年通り第四土曜日の25日(土)に小梨平にて行います。現役一同、お待ちしております。今年は新入生(55期)が多いため、裏銀座2班を加えた計11班にわかれ山行を行います。OBの先輩方には、班増加による不足分テントの援助を頂きました。現役が普段よりサークル活動を行えるのは皆様の多大なる御助力ゆえです。この場をお借りして御礼申し上げます。

## 活 動 報 告

### 文学散歩



目白に勤めて早1年、日々通り過ぎるばかりの場所を知るまたとない機会と考え、初めて文学散歩に参加をさせていただいた。

7月1日(日)12時半、JR目白駅改札口に集合。12期響田先輩の案内で、今にも雨が降りそうな中、まずは駅からほど近い徳川邸に到着。うっそうと茂る森の中に洋館が建ち並ぶその様は、タイムスリップでもしたような錯覚に陥る不思議な空間で、山手線の駅から徒歩2、3分の場所とは思えぬ静けさであった。「この場所こそが目白文化村(※)の風情を一番に残している。」と記述している本もあるが、なるほど今回の文学散歩のスタートにはふさわしい場所であると古に思いを馳せた。現在、徳川ドミトリーは女子学生会館、戸建ては外国人専用の貸家となっているとのことであった。

その後目白聖公会に立ち寄った後、目白通りを挟んで南側に歩を進め、近衛邸跡、船橋聖一終焉の地、中村彝のアトリエ、日立目白クラブ(旧学習院昭和寮)等、当時の面影を残す街並みを横目におとめ山公園に至った。ここで驚いたのは、おとめ山とは「乙女山」ではなくて「御留山」であり、江戸時代は將軍家の狩猟地で、立ち入り禁止という意味の「御留」が由来であるとのことであった。

この後、下落合から中落合へと移るにつれ、雰囲気も現在の住宅街へと戻り、大正三美人と称された九条武子終焉の地や本田宗一郎邸跡を公園にした下落合公園を経て、聖母病院の程近く、佐伯祐三のアトリエが現存する佐伯公園に到着した。現在は記念館として公開されており、ジブリ映画のとなりのトトロに出てくるような可愛らしい洋館の中を見学することができた。今の私の年齢に病没されていることを知り、後世に与えている影響や生き方等、個人的には一番考えさせられるスポットであった。

佐伯記念館で30分程時間を過ごした後、遂に山手通りを超え中井エリアに突入した。このエリアは現存する石橋湛山の邸宅等、和洋折衷の建物に接することができた。こうしてしばらく歩くと今回のハイライト林芙美子記念館にたどり着いた。ここではスタッフの方に館の説明をしていただくことができ、林芙美子のプライベート空間へのこだわりや、客間にはお金をかけない等、見栄を張らない性分を垣間見ることができた。記念館を出る頃には雨が降り始め、終着点の萬昌院への道すがらは大変に遠く感じた。私と岩本さんは傘を持ってきていなかったが、他の皆さんはさっと鞆から折り畳みの傘を出され、さすがは文学散歩の先輩方であると感銘を受けた。

萬昌院には林芙美子の墓の他、吉良上野介の墓もあり、本日の旅を無事に終えられることを感謝した。余談であるが、泉岳寺にある赤徳浪士の墓は花や線香が絶えず供えられていることに比べ、吉良家の墓は本当にひっそりとしており、枯れた花がそのままになっている光景はなんとも形容しがたい無常を感じるものであった。

こうして気が付けば、時間は16時半と出発から4時間が経過しており、酒が恋しい時間となっていた。その後は高田馬場へ移動し、さかえ通りの清龍にて12期の片山さんと合流し、昔話に花を咲かせて夜は更けていった。おしまい。

※大正時代から昭和時代にかけて存在した、後の西武グループとなる堤康次郎の箱根土地(株)が大正時代から分譲を始め

た郊外型の高級住宅街の名称。現在の東京都新宿区中落合1丁目と2丁目の一部、3丁目と4丁目の大半、中井2丁目、西落合1丁目一部にかかる一帯が該当。

## 上高地ウォーキング

6月：上高地ウォーキング

～シニアOB4組のカップル～

3期 石塚 道久

2012.6.4(月)～6.6(水)、2期橋本、林田、加藤、3期石塚の4組の古希夫婦が上高地に集結。当初は1期小宮山夫妻も予定していたが直前に体調を崩して残念ながら不参加。普段の行いが良い賜物か・・・直近では最高の天気。穂高の残雪、化粧柳の新緑もエゾムラサキ(忘れな草)もそれほど変わってはいないけれど大正池はかなり小さくなったかな。

創成期の頃、この世代は毎年6月初旬、上高地キャンプと称して小梨平に天幕を張り数日を過ごしました。焼岳や岳沢辺りまで足を伸ばしたり、ウェストン祭に飛び入りして講堂で著名な岳人の話を聞いたり・・・榎有恒、串田孫一、黒田正夫、初子夫妻等々。尾崎喜八氏は自作の詩を詠んでくれました。今年のウェストン祭でも喜八さんの詩が詠まれたそうです。多分こんな詩ではないかな。

「玉のような時間」

原始林の中のこの片隅が  
そのまま一幅の小さい画であり、  
一篇の歌であることを認めよう。  
.....

宿は上高地温泉ホテル。上高地で温泉が湧くのはここ隣の清水屋ホテルだけ。実は林田氏と私はここが新婚旅行の宿。宿の配慮で2日間とも夕食を別室に設けてくれたので周りに遠慮なく懐かしい話は延々と続きました。

2日目は徳沢までウォーキング。道中、花の競演。ズミ、ツバメオモト、ハシリドコロ、エンレイソウ(シロバナも)、キケマン、サンカヨウ等々。白沢出合の樹林帯にはシャクナゲも。それにしても徳沢のニリンソウの群落は見事。天幕は1張だけ。この時期徳沢はこの上なく静かです。昼食は徳沢園で「野沢菜チャーハン」他。私を除く3人は新村橋迄往復。帰りに明神池に寄り、右岸の道を河童橋迄。奥方達の足を心配したけれど30,000歩完歩。岳文OBの古希カップルは健在です。

こうして青春の原点、上高地で3日間、「玉のような時間」を過ごした私達は穂高を振り返り見ながらこの偉大な自然に別れを告げました。松本で羽田経由長崎迄帰る林田氏と別れ、残りの3組は「こばやし」でそばを食べ、「開運堂」で菓子を買って帰京したのであります。



# 北海道岳文OB会

## 7月：北海道岳文OB会、開催される

### 7期 小田 毘古

小田毘古(7期)が5期の小野倫夫さんとトムラウシ登山した際、下山後、札幌でOB会を開催した。ススキノの店に集まったのは田中健二さん(4期)、森昌実さん(5期)、矢野義尚さん(7期)、藤野彰さん(16期)、そして小野さんと私。藤野さんはこの春から読売新聞から北海道大学院教授に転進された。図らずも、藤野さんの「ようこそ札幌へ」歓迎会も兼ねることになった。ススキノでの二次会には26期の本文夫さんも出張帰りに顔を出し、久しぶりのOB会に話がはずんだ。この他に北海道には次のOB・OGがいる。矢野冴さん(8期)、越前谷勝人さん(13期)、山崎俊之さん(27期)、原口康洋さん(28期)、そして藤野さん同様、この春から転動してきた寺田耕晴さん(18期)。一年に一回くらいOB会をやるのではないかと、小野さんを会長に選出して、北海道OB会は終わった。

# 中国地方のOBから

## 近況報告

### 12期 赤丸 達治(広島県在住)

岳文会OB会会長であり、わが12期幹事長であった轡田兄から、広島岳文会の活動について寄稿せよとの連絡がありました。実は年数回メンバー3人が酒場に集まって飲んでいるというのが活動の全てです。とはいえ、いつも楽しく充実した時が過ごせるというのも、時期は違え、岳文会という共通の活動基盤があればこそだと思います。

メンバー3人といいましたが、私と多田倫彦さん(17期、中国新聞社)、串岡勝明さん(19期、広島県庁)の男ばかりなのですが、45期の吉田祥子さんが、デンソーの新入職員として広島に配属になり、毎回我々の酒場放浪につきあってくれ、新風を吹き込んでくれました。昨年めでたく名古屋の本社勤務となり、一抹の寂しさを感じているところです。孫が帰った後の夏の終わりといったところでしょうか。

私の近況ですが、5年前永年勤務した中国電力から、グループ会社の中電工に転籍しました。厳しい市場競争の中に身を置いて、電力会社とはまた異なる苦労や、一方で充実感を味わい、いまでは、すっかり建設業界の人になりました。この7月から監査役に就任し、違った視点から会社を考える機会を得ました。会社生活最後の仕事になると思いますので、思い残すことのないように取り組みたいと考えています。

私生活ですが、私と妻それに私の両親の4人で過ごしています。母親が体調不良であるため同居しているものです。したがって、あまり遠出をするということではできません。

最近ほとんど山にも登っていませんでしたが、この春、妻と一緒に自然観察をしながら山登りを楽しむという会に参加し、近郊の山に日帰りですぐ登りました。植物の専門家と愛好家のグループの会でした。登山道に咲く花や木々のすべてに名称があり(あたりまえですが)、植生の特徴があり、同じミレでも何種類もあって花弁も微妙に異なる。山頂が草原状になっているのは、かつて放牧が行なわれていたことのおかげである、といったことを立ち止まっては聞きつつ登るのは初めての体験でした。登山にはこういう楽しみもあるのかと、いまさらながら感心したのですが、いかんせん、山には同じペースで黙々と登るといことが体にしみついているので、完全にペースが狂い、疲れきってしまいました。

大学時代を振り返ると、とても懐かしく、いい時代であったと感じます。まさに「若きよき日に友と歩みし飯豊、北岳、八ヶ岳」という心境です。

我々が過ごした昭和44年からの4年間は学園闘争の渦中にあり、また自分の不真面目さもあって、ほとんど授業に出

ず、勉強らしい勉強はしていませんが、やはり自らの骨格を形成したのは紛れもなくこの4年間であり、その核には岳文会があったと思います。

その岳文会が途切れることなく続いて50周年を迎え、そしてまたOB会が着実に活動の輪を広げているというのは、同慶の至りです。これからも脈々と伝統が引き継がれることを祈念するとともに、関係者の皆様のご尽力に感謝申し上げ、近況報告とします。

## ぜひ島根にお越しください

### 12期 西垣 洋(島根県在住)

第12期の西垣です。大学卒業後、ふるさと島根で就職し約40年が経ちました。

30歳のとき大病をして半年休職し、以来山登りはしていません。

送られてくる広報が皆様の動静を知る唯一の手段ですが、この度中国地方在住のOBに原稿の依頼があり筆をとった次第です。

在学前後数年の方々しか存知あげませんが、私の知る限り岳文会には島根県出身の会員はおられなかったと思います。そこで、皆様には馴染みの少ない当地の話をしてみたいと思います。

今年は古事記編纂千三百年とかで、当地はこの7月～11月の期間神話博を催し客寄せに力をいれております。島根といっても、東日本人には地図上の位置がはっきりしないとは思いますが、それは関西以西の人間にとって、栃木や群馬の位置関係が定かでないのと同じことでしょう。

しかし、出雲といえば、由緒ある神社が各地に点在し、その代表格が出雲大社といえるでしょう。出雲大社の門前には竹内まりやの実家である旅館「竹乃家」もあります。また、沢山の銅剣・銅鐸の出土した荒神谷遺跡や加茂岩倉遺跡、世界遺産の石見銀山も近くにあります。

私の出身地は松江で、これまた四国の松山とも勘違いする人も多い全国的にはマイナーなイメージですが、明治維新当時は、日本海側では越前福井について人口も多く、全国でも20番以内に入る大都市で、徳川家康の次男結城秀康の子である松平直政が信州松本から入府した徳川親藩の城下町です。築城したのは、豊臣秀吉の老中であつた堀尾吉晴ですが、これも司馬遼太郎の「関が原」にでてくる話の中で、徳川家康が開いた小山会議の席で、掛川城主の山内一豊が自分の城を差し出すと申し出る前に、浜松城主の堀尾忠氏(堀尾吉晴の子)が事前に言っていたのを、山内一豊に先を越されてしまったために、土佐24万石でなく、出雲18万石になってしまったという話も残っています。松江城は築城当時の天守閣がそのまま残る全国12城のひとつで、その中で大きさは2番目、古さは3番目といわれ、姫路城のような優美さはありませんが、天守単独でみると姿かたちの美しさは第1級のもので、これが何故国宝でないのか不思議な気がします。

松江で何といっても有名なのは、宍道湖に沈む夕陽の美しさです。数年前NHKが「だんだん」という朝ドラを放映していましたが、そのときのタイトルバックに写っていた太陽は実は宍道湖の夕陽でなく、朝陽だったということです。宍道湖で一番美しい夕陽は10月頃で、山際の雲の間を少しずつ沈んでいく中、夕陽が湖面に映え、町並みが徐々に暮れていくところではないでしょうか。

その他、後鳥羽上皇や後醍醐天皇も島流しとなった隠岐の島も、高貴で純朴な人が多く、一度この土地の人情に触れると永住したくなると、今都会地から移住してくる方も多いと聞きます。また、今大相撲で売り出し中の隠岐の海も、横綱は無理としても、三役は期待できる、久方ぶりの日本人力士のホープです。

皆様、機会がありましたら、ぜひ島根にお越しください。

## 現状報告

### 46期 中村 正毅 (広島県在住)

早いもので大学および岳文会を卒業して5年が経過しました。年齢を重ねるにつれ、月日の流れが益々早く感じる今日この頃です。

私がOB会報に寄稿させて頂くのは、二度目になります。前は約2年前に「出世登山」と銘打ち、取引先との登山報告をさせていただきました。今回は中国地方のOBを対象に執筆依頼がありましたので、簡単に登山を中心に現状報告をさせていただきます。

私は2011年4月より、広島県広島市に住んでおります。某石油元売会社の営業所にて、主に山口県西部にて日々油を売っている毎日です。卒業後も登山を続けており、中国エリア最高峰の大山、そして今大ブームの平清盛にちなんだ宮島・弥山に登りました。ちなみに今年は夏休みに焼岳に登ってきます。名古屋勤務時代に、登山を縁に交流のできた方々と久しぶりの再会で、over 60歳の方々を引き連れていくのはいささか不安もありますが、楽しみです。岳文会で培った登山経験が、今なお私の人生に一層の厚みを持たせてくれていることを痛感します。そんなこんなで私は元気に楽しく西日本生活を満喫しております。皆様も広島・山口にお越しの際は是非ご連絡ください。

追記 牡蠣祭は体調不良で倒れてしまい、申し訳ございませんでした。またのお越しを心よりお待ち申し上げます。

## 近況報告に代えて

### 50期 阿子島 駿輔 (山口県在住)

岳文会を離れ、もうすでに一年以上が経過している。現役の時とは登山シーズン中、ハイキングのような軽いものを含めれば、平均月に2~3回ぐらいは山に入っていたと思う。社会人になり、私は山口県の光市にある製造所へ配属された。小高い山々と美しい海岸に囲まれた住みやすい土地ではあるのだが、周りに登山をやっている人がいなかったこともあり、だいぶ山とは縁遠い生活を送っていた。そんな山口県での生活の中で、最近私は再び山にもどることになった。

「6月のゴルフコンペ阿子島出席するよな？」今年4月のことである。もちろん私に拒否権などあるはずもなく再来月に開催される取引先とのゴルフコンペへの出場が決定した。もちろんゴルフの経験などない、コンペまでは2カ月をきっていた。とりあえず安いゴルフセットを購入し、寮の近くにある打ちっぱなしへ行ってみることにした。設備は古いが料金もあまり高くなく練習にはもってこいの場所である。まずは得意なクラブを作れという上司からのアドバイスに従い、7番アイアンから練習することにした。マットにボールをセットし、クラブを大きく振り上げ、ボールを叩く。適度なスピニングがかかったボールはきれいな弧を描きながら150ヤード先にある目印の旗のそばにぴたりと着地した・・・なんてことがおきるはずもなく、とにかくボールがクラブに当たらない、当たったとしてもまともに前に飛ばない。数メートル先に転がっていくか、まるで目の前に大きな壁がそびえ立っているかのように右や左に吹っ飛んでいくのである。止まったボールを打つことがこんなに難しいこととは思いませんでした。ボールにはちっとも当たらなかったくせに、これは思っていた以上に大変な課題かもしれないという私の予想はしっかりと当たることとなる。それから週に1~2度職場の同期先輩と連れだって、打ちっぱなしやゴルフレッスンに通ってはみたものの、すぐに上達するはずもなく、ただただ筋肉痛に悩まされる日々が続いた。

コンペの季節はちょうど梅雨なので、スイングの練習ではなく雨乞いの練習に切り替えようと思ったことだろうか、しかしそんな思いとは裏腹にうす日のさす絶好のゴルフ日和で本番を迎えることとなってしまった。コースの経験は練習で1度ハーフを回ったことがあるだけで本格的なコース

デビューはその日が初めてである。一組目に入れられたので、周りには後続の方々が大勢控えていた。多くの視線を背中に感じながら、打った第一打は大きく右に逸れ林の中へ消えていく。その後2~3回のOBや誤球をしてしまったせいでこのホールだけで17打も叩いてしまった。流石に気まぎれくんだり、背中に冷たいものが流れた。その後は一緒に回った方々のご指導もあり、そこまで叩く事はなかったが、結局全ホールを回り終えるのに187打かかった。別の組で回っていた同期の女の子が140打ぐらいだったので、ちょっとだけ悔しかった。

そんなこんなで散々な結果であったものの私は何とかゴルフデビューを果たす事ができたわけだが、これからもゴルフを続けていきたいと思っている。ゴルフがコミュニケーションのツールとして機能している現状を上手く利用していきたいという功利的な側面もあるが、純粋にスポーツとして楽しかった。二ヶ月程度の短い練習期間であったが、何百球と打っているとまれにいい当たりというものが存在する。そんなスイングが出来た時はへたなりに嬉しくなってしまうものである。まだまだコースを回れるレベルには達していないが、いつの日か岳文会の方々とラウンドを回れる日が来ることを期待しつつ今日も仕事帰りに練習場へ通っている。

## OB会幹事会からの連絡

### 上村正剛氏(3期)が真言宗智山派大僧正に昇補

岳文会創始者でOB会名誉会長の上村正剛さん(3期)が3月23日付で真言宗智山派の最高位である大僧正に昇補しました。僧の衣は位によって黒色→黄色→萌黄色→紫色→緋色と変化します。大僧正だけが緋色衣を着用できます。真言宗智山派の総本山は智積院(京都)。ここには長谷川等伯の襖絵(国宝)があります。OB会員も一度、智積院を訪れてみたいかが。只、上村さんは普段は岩槻大師彌勒密寺に在寺が多いです。

## 訃報

謹んでご冥福をお祈りいたします。

- ・阿部正文さん(9期)が、2011年2月6日に食道がんが遠因で亡くなられました。阿部さんは9期の幹事長を務められました。
- ・近藤泰宣さん(5期)が、2011年6月30日に肺がんで亡くなられました。

## 年会費について

### 45期 小西麻子

会費の納入につきまして、今年度もご協力賜りありがとうございます。今回の会報では現時点で会費をまだ納入いただけていない方にのみ会費納入用紙を同封させていただきました。確認相違、ご不明な点等がございましたら、お手数ですが事務局までご連絡をいただければと思います。なお、今年度は50期までが納入対象者です。(51期は対象外)

以上、よろしく願い申し上げます。

- 1) 一会員につき年額 3000円  
(夫婦会員の場合には一世帯につき年額 3000円)
- 2) 本年は平成23年11月26日を平成24年度開始日とする
- 3) 振込口座  
[当座] 00230-8-30118  
又は [普通] 店番 008 口座番号 6690731

同封の赤い振込用紙で郵便窓口もしくはゆうちょ銀行ATMでお振込みいただくと手数料が無料です。ゆうちょ銀行備え付けの青い振込用紙もしくは他行からのお振込は手数料がかかりますのでご注意ください。